

ISSN 1880 - 1412

千葉県立中央博物館分館 海の博物館 ニュースレター

いそつぴ通信 No.6

(平成16年度版)

The Newsletter of the Coastal Branch of Natural History Museum and Institute, Chiba
No. 6 (1 April 2004 - 31 March 2005)



千葉県立中央博物館 分館海の博物館

長引く景気の低迷等による財源不足を克服するため、千葉県では「千葉県財政再建プラン」を策定しました。その政策のひとつとして、平成16年4月より、すべての県立博物館が入場料を徴収することとなりました。それにもかかわらず、ゴールデンウィークやお盆休み、マリンサイエンスギャラリー開催期間中などには、ほぼ従来どおりの人数のお客さまが海の博物館に足を運んでくださいました。私たちスタッフもそれなりの努力をして参りましたが、やはり“主役”である海の生きものたちに多くの人を引き付ける魅力があるためであろうことが想像できます。

この一年間の海の博物館のできごとをとりまとめた「いそび通信 6」をお届けします。今回は少し趣向を変え、当館行事にご参加いただき、ぜひみなさまに観察していただきたい生きものにスポットをあてたページを設けました。これをご覧になったみなさまが、これらの生きものに出会うためにフィールドへのさらなる関心を持って下さったのなら、私たちとしてはこれほど嬉しいことはありません。

平成16年度のトピックス	1
房総の海から新種発見!	1
平成16年度マリンサイエンスギャラリー「～水中に咲く花～イソギンチャクの世界」開催	2
特集 海の博物館の野外行事に参加して	
この生きものを観察しよう!	4
平成16年度の活動記録	8
1 展示活動	8
2 教育普及活動	12
3 資料収集活動	17
4 調査研究活動	20
事務室より	22
平成17年度の行事案内	24
職員から	

表紙の説明：スナイソギンチャク *Dofleinia armata*
(撮影：立川浩之)

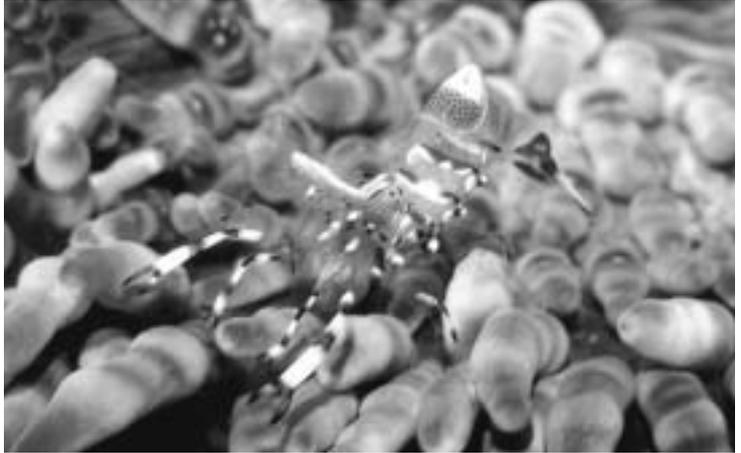
水深10m 以深の砂地に生息する大型のイソギンチャクで、触手を広げたときの幅は30cm に達するものもいます。触手の色は個体によってさまざまです。表紙の個体では、触手は金色を帯びた黄色で、この写真は平成16年度マリンサイエンスギャラリー「イソギンチャクの世界」の中で展示されました。

平成16年度のトピックス

房総の海から新種発見！

アカホシカクレエビ *Periclimenes speciosus* Okuno, 2004

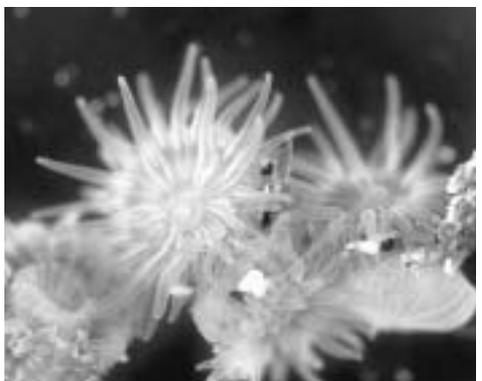
このエビはテナガエビ科ホンカクレエビ属に含まれ、浅海の岩礁域に生息し、イソギンチャクの仲間やポリプの大きなサンゴの仲間などと共生しています。さらに魚の体に飛び乗って寄生虫を食べる、クリーニングも行います。このエビは、透明な体に名前のと通りの赤い小点がちりばめられています。その色彩がとても美しいため、興味深い生態と相まって、水中写真を楽しむダイバーには良く知られ、人気のあるエビでした。ところが、



館山や伊豆半島、八丈島、長崎などで採集した標本をくわしく調べてみると、ホンカクレエビ属のどの種とも一致せず、当てはまる学名がないことがわかりました。そこで、上述の標本を使って形態や色彩を詳しく記載するとともに、*Periclimenes speciosus* という新しい学名を与え、“新種として”発表しました。一般的には、“新種”というこれまで人の目にとまることなかった、極めて珍しい生物というイメージを持たれるかも知れませんが、しかしながら、よく知られた種であろうとも、分類学では該当する学名のない種に対して新しい学名を提唱した時点で新種の誕生となるのです。実は、この種の標本をはじめ採集してから新種として発表するまで、8年もの歳月が流れています。類似する種との形態的な違いを見つけだすのが難しかったこともあり、一番のハードルは、このエビが人気者であるため、データをとるのに十分な数の標本を集めるのに時間がかかったことです。研究のためとはいえ、愛らしいエビが標本になってしまうのは、まだまだ分類学の重要性が広まっていないということなのでしょう。（奥野淳兒）

新種のイソギンチャク, *Anthopleura atodai* Yanagi & Daly, 2004 を発表

2004年12月に、新種のイソギンチャク、*Anthopleura atodai* Yanagi & Daly, 2004が米国の学術雑誌上で発表されました。国内のイソギンチャクの新種発表は、実に半世紀ぶりとなります。このイソギンチャクは、ヨロイイソギンチャクの仲間、口の部分に2つの青い斑点があるのが特徴です。ただ、イソギンチャク類の分類では、隔膜の配列や筋肉の形状、刺胞などが重要な形質とされていて、外見だけでは種どころか、グループさえ見分けることができません。このため、イソギンチャク類の分類は非常に困難なのです。このイソギンチャクは、雌雄同体であることや、刺胞の分布の特性などから、これまで知られているヨロイイソギンチャクの仲間約40種のどの種にもあたらないと判断されました。このイソギンチャクは、岩礁域の潮間帯上部に生息しており、東北太平洋岸から房総半島南部および伊豆大島の各地で分布が確認されています。



（柳 研介）

平成16年度マリンサイエンスギャラリー
～水中に咲く花～
イソギンチャクの世界 開催
平成16年10月30日～平成17年1月10日

平成16年度のマリンサイエンスギャラリーでは、普段あまり注目されることのないイソギンチャクにスポットをあて、その分類や暮らし、人との関わりなどを紹介しました。イソギンチャクは、よくよくみるととっても美しい生きものですが、標本ではその美しさが伝わりません。そこで、今回の展示では、できるかぎり生きたイソギンチャクをご覧いただくため、生体の水槽展示を多用しました。

展示は「はじめに」、「イソギンチャクってどんな生きもの?」、「イソギンチャクの一生」、「他の生きもののかかわり」、「千葉県のアシサンゴ」の5つのコーナーに加え、2つのトピックで構成しました。各



コーナーでは、写真や解説パネルに加え、そこで紹介されているイソギンチャクが生きた状態で観察できる水槽を用意しました。

まず入口でのお出迎えは、ミドリイソギンチャクです（写真左）。触手がピンク色ですが、体に緑色のイボが並んでいる、とても美しいイソギンチャクです。ここで、「イソギンチャク=美しい花」というイメージを持っていただけたと思います。

次に、「イソギンチャクってどんな生きもの?」のコーナーでは、イソギンチャクがクラゲなどと同じグループの動物で、イシサンゴの仲間と近縁であることを、パネルに加え、それらの生きた姿をご覧いただきました（写真左下）。また、イソギンチャクの体の構造を、手で開いて内部を観察できる模型で紹介しました。また、イソギンチャクの武器である「刺胞」の発射の様子のビデオ上映も行いました。ここでは、イソギンチャクの分類学的な位置づけや、体のつくりなどをご理解いただけただけですが、触手を開いているイシサンゴの水槽展示（写真右下：タコアシサンゴ）に興味を持たれるお客様も多くいらっしゃいました。





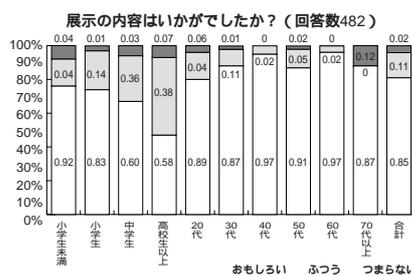
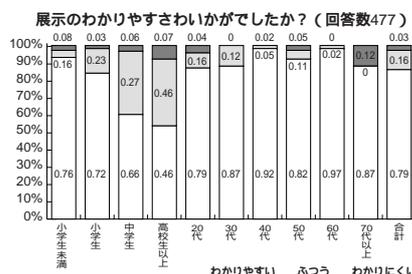
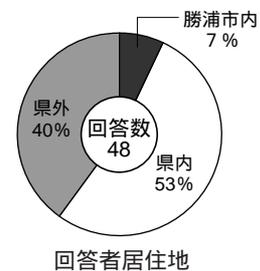
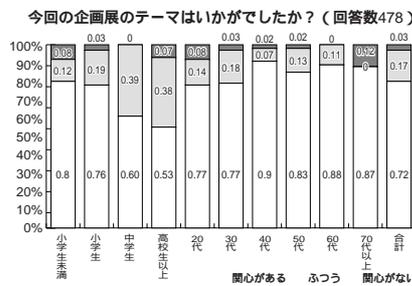
「イソギンチャクの一生」のコーナーでは、イソギンチャクがどのように増えるのかを紹介しました。イソギンチャクの生殖巣を顕微鏡で観察するコーナー（写真左上）、子育てをするコモチイソギンチャクや、無性生殖で増えるイソギンチャク（写真右上）などの水槽展示などをおして、イソギンチャクの生活史の一端をご覧頂けたと思います。

「他の生きもののかかわり」のコーナーでは、人気のクマノミ類の水槽（写真左下）

に加え、イソギンチャクに隠れるアカホシカクレエビや、イソギンチャクをハサミにはさみこんで武器にするキンチャクガニなどの生きてる姿をご覧いただきました。また、人間が刺されると痛いスナイソギンチャクや、食用として知られるイシワケイソギンチャクなども、水槽展示によって紹介しました。他、このコーナーでは、自らヤドカリの使う殻を作って住ませるキンカライソギンチャク（写真右下）など、珍しいイソギンチャクの標本なども紹介しました。

「千葉県のアカホシカクレエビ」のコーナーでは、39種類のイソギンチャクを写真、水槽、標本などで紹介しましたが、「千葉県にこんなに多くの種類がいるのか」と驚かれるお客様も少なくありませんでした。

今回の展示をおして、普段あまり気に留めない生きものでも、しっかり観察してみると、その美しさや不思議さを発見できることを伝えることができたと思います。



今回のマリンサイエンスギャラリー開催期間中に行ったアンケートには、482名の方から回答をいただきました。テーマ自体への関心が高かったのは驚きでしたが、多くの方にさらなる興味をもっていただけだと思います。また、特に面白かった展示についての質問では、回答が分散し、どのコーナーも総じて魅力があったものと思います。「全て良かった」という回答も少なくありませんでした。また、160人の方から、アンケート余白コメントを頂きました。ここではその一部を紹介します。

龍こんなに身近でイソギンチャク見たの初めてで、おもしろかったです。いろいろ知ることができました。クイズしながら見るのも、おもしろかったです。ありがとうございました。（県内女子中学生）

龍見てすばらしい。イソギンチャクのイメージが変わった。とてもおもしろいと思った。美しいものだと感心した。（県内50代女性）

龍いろいろ展示、標本ではなく生き物としての海が分かる工夫がされていた。イソギンチャク昔から美しいと思っていたが、まとめて見られて感動。（県内50代男性）

特集

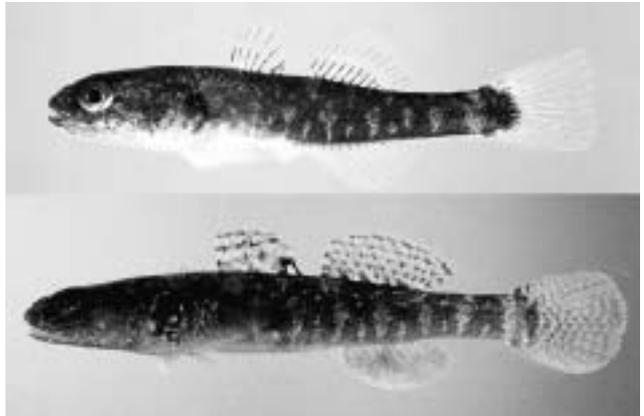
海の博物館の野外行事に参加してこの生きものを観察しよう！

海の博物館では、観察会やフィールドトリップなどの野外行事を博物館周辺の海岸で多数行っています。これらの野外行事では、さまざまな海の生きものが観察できます。ここでは、それらの生きもののうち、美しい色彩や変わった行動など、ぜひ本物を観察していただきたい魅惑の生きものを、各行事の講師をつとめる当館スタッフが紹介します。

魚類

アゴハゼ *Chaenogobius annularis*

海の博物館の観察会「親子で磯の小魚を探そう」では、潮のひいた博物館前の磯でいろいろな小魚を採集して観察します。毎年、スズメダイ類の稚魚やイソギンボ類とともに採集されるハゼ類の一種、アゴハゼを紹介します。このハゼは、琉球列島を除く日本各地と朝鮮半島に分布し、磯では最も普通に見られるハゼ類のひとつです。形態的には、胸ビレの上部に糸状の遊離軟条がたくさんあることが特徴です。親になっても5～6cm程度、潮だまりや転石のまわりに住んでいます。この時期にはアゴハゼの稚魚も観察することができます。大きさは1.5cm程度、数十匹が中層を泳ぎ回っています。1ヶ月もすると親と同様に底生生活に移ります。（藍澤正宏）



（上：稚魚 下：成魚）

ハナオコゼ *Histrion histrio*

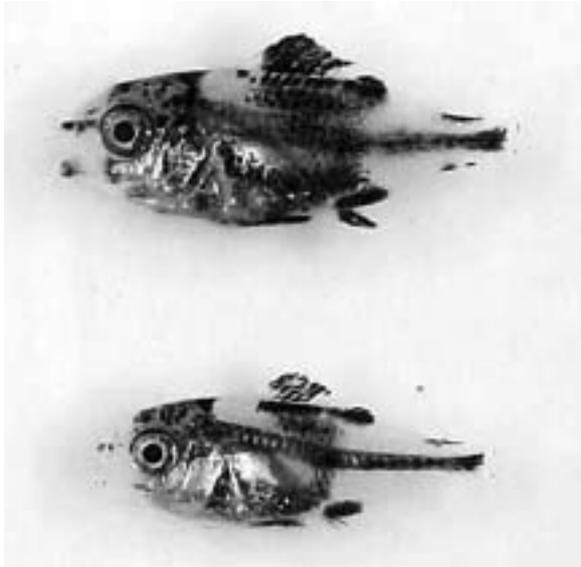
観察会「流れ藻に付く稚魚」では、海面を漂う流れ藻（海底に生えていた海藻が切れて流れ出したものの総称）とそれに付随する生物（主に稚魚）を、船に乗って観察します。この観察会で出会う魚の一つにハナオコゼがいます。この魚、オコゼと名は付いていますが、正確にはアンコウ目イザリウオ科の魚で、カサゴ目ハオコゼ科やオコゼ科の魚のような棘や毒は持っていません。本種は、中・東部太平洋を除く世界中の熱帯から温帯に分布しており、英語圏では、一般的に「surgassumfish（直訳すると褐藻魚）」と呼ばれています。この名前は、流れ藻の大部分を占める褐藻類とよく似た体色をし、その中で暮らす本種の特徴をよく表しています。このため、流れ藻の中にいるハナオコゼを船の上から発見することは至難の業で、大抵の場合は、藻を網で掬い上げて初めてその存在に気が付きます。採集したものを水槽に入れて観察すると、胸ビレと腹ビレを手足のように使って藻の間を器用に移動し、人の目には愛嬌のある魚に映ります。しかし、ハナオコゼは大食漢で、大きな口で動く物を一飲みにするため、流れ藻に暮らす稚魚達にとっては、とても危険で迷惑な魚なのです。

（乃一哲久）

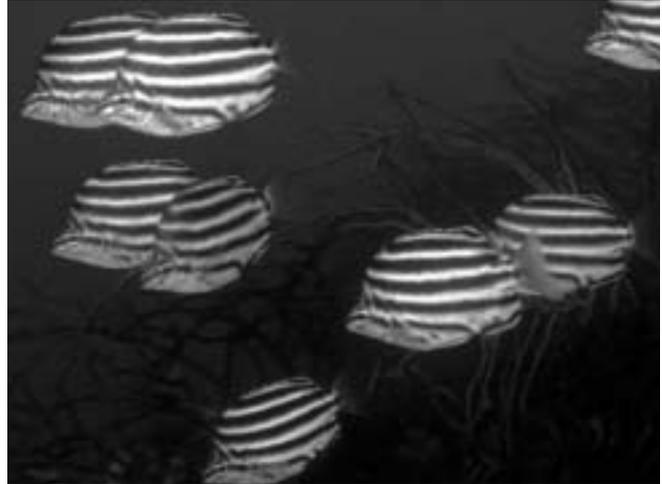


カゴカキダイ *Microcanthus strigatus*

春から夏にかけて、潮だまりで体にしま模様のある小魚が群れで泳いでいるのを目にすることがあります。これは、カゴカキダイの稚魚です。潮だまりでは全長10～40mm位の稚魚がよく見られますが、大きさによって体のしま模様が変わります。いろいろなサイズの稚魚を捕まえて、しま模様の変化を調べてみましょう。(川瀬裕司)



(稚魚)



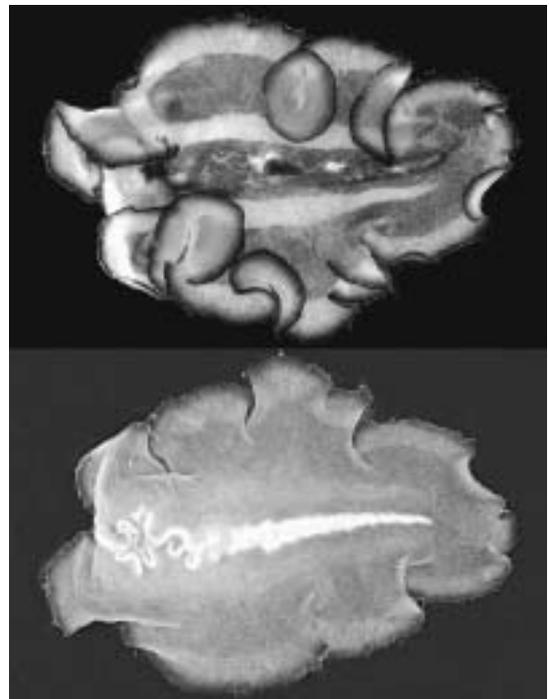
(成魚)

無脊椎動物

クロスジニセツノヒラムシ

Pseudobiceros gratus

磯で岩をひっくり返すと、ひらひらと泳ぎ出す薄べったい物体を目にすることがあります。その多くは扁形動物のヒラムシの仲間と考えるとよいでしょう。海の博物館の前の磯では、ヒラムシの仲間が何種類も見られます。しかし、地味な色のうえ、岩の裏側にはりついている種類が多いので、あまり目立ちません。そのような中で、ニセツノヒラムシの仲間は美しく、とても優雅に泳ぎます。この仲間は、南方の海にたくさんの種類が生息していますが、博物館の前の磯では、時折クロスジニセツノヒラムシという種類を見ることができます。このヒラムシは、背中に暗色の幅広い3本の帯が縦に走っており、白っぽい地色との美しいコントラストを作っているのが特徴です。また、体の縁は強く波うっており、黒く縁どられています。17年8月7日開催予定の観察会「水中メガネで海の生きものを観察しよう」でも、ひっくり返した岩から、このヒラムシが泳ぎ出す姿を見ることができるかも知れません。あ、ひっくり返した岩は、もとに戻すことを忘れずに！(柳 研介)



(上：背面 下：腹面)

ウノアシガイ *Patelloida saccharina*

磯に出かけたら、あなたが立っている岩の上をじっと観察してみてください。一見何もいないように見えるかもしれませんが、実はそこには海藻や貝やフジツボなどの生きものがたくさんくらしています。

ウノアシガイもそんな生きものの一つです。磯の岩の上にたくさんいるのですが、多くの人は目をとめません。そんな「地味な」ウノアシガイですが、注目してみると色々な疑問がわいてきます。

なぜ「ウノアシ」という名前なのでしょうか？

よく見ると、自分の殻と同じ形の岩のくぼみにぴったりとおさまっていますが、これはどうしてなのでしょう？

どんな物を食べて、どんなくらしをしているのでしょうか？

海の博物館の行事に参加すると、答えの一部が聞けるかもしれません。

磯にはウノアシガイの他にもたくさんの生きものがいます。そして、それぞれの生きものにたくさんの不思議なことがあります、まだ分かっていない事もたくさんあります。少し注意深く観察してみて、少し生きものについて考えてみると、磯観察の面白さがもっと広がると思いますよ。
(村田明久)



オカダウミウシ *Vayssierea felis*

ここ数年、ダイビング愛好者を中心にウミウシ人気が高まっています。海の博物館の観察会「ウミウシを探そう」では、潮のひいた博物館前の磯でいろいろなウミウシを探します。ここでは毎年必ず見つかるオカダウミウシをご紹介します。写真では大きく見えますが、実物は大きくても体長3mmくらいと、ウミウシの中でも最小と断言していいサイズです。石の裏にくっついていいるときにはオレンジ色の点にしか見えませんが、観察会に引き続いて行う講座「ウミウシを調べよう」で顕微鏡を使って拡大してみると、こんなに小さな体でも立派にウミウシであることがわかります。さらによく観察すると、多くの場合、体の中にある卵が透けて見えます。オカダウミウシの卵のサイズは、ウミウシの仲間としては大きいのですが、一度に産卵する卵塊にはわずか10個あまりの卵しか含まれていません。ウミウシの仲間は、卵からふ化した幼生がプランクトンとして海中を漂いながら成長するものが多いのですが、オカダウミウシの大きな卵からは、親と同じ形をした幼体がふ化して出てきます。このような発生のしかたは「直接発生」と呼ばれています。オカダウミウシのいる石の裏を注意深く観察すると、この卵塊も見つけることができるかもしれません。
(立川浩之)



ゴイシガニ *Palapedia integra*

このカニは、幅およそ2 cmの小さな種類で、ほぼ円形な甲の輪郭、背中の盛り上がり、全体的に白っぽい色彩など、和名のとおり碁石のようです。新潟から九州にかけての日本各地から東南アジア、インド洋の東部の浅い水深帯に広く分布し、決して珍しいというわけではありません。しかし、このカニを観察するためには、少しコツがいります。細かい砂のたまったタイドプールで探すのがポイントです。このようなタイドプールにある石をそっとおこしてみましょ。すると、石の下の砂がモゴモゴと動いていることがあります。動いているところを掘り起こしてみると、このカニが出てきます。ゴイシガニの歩脚（歩くための脚）の先端に注目して下さい。園芸シャベルのような形をしています。これは、すばやく潜るために砂を掘りやすくするシャベルの役割をしているものと考えられます。ちなみに、ゴイシガニは、少し古い図鑑を見ると、海の幸として有名なケガニとともに「クリガニ科」に含まれていたり、独立した「ゴイシガニ科」として扱われていたりします。最近の分類学では、ゴイシガニはスベスマンジュウガニやヒメオウギガニなどと同じ「オウギガニ科」に所属すると考えられています。このカニと出会ってみたい方は、8月20日（土）開催予定の観察会「エビ・カニを探そう」に参加してみてください。



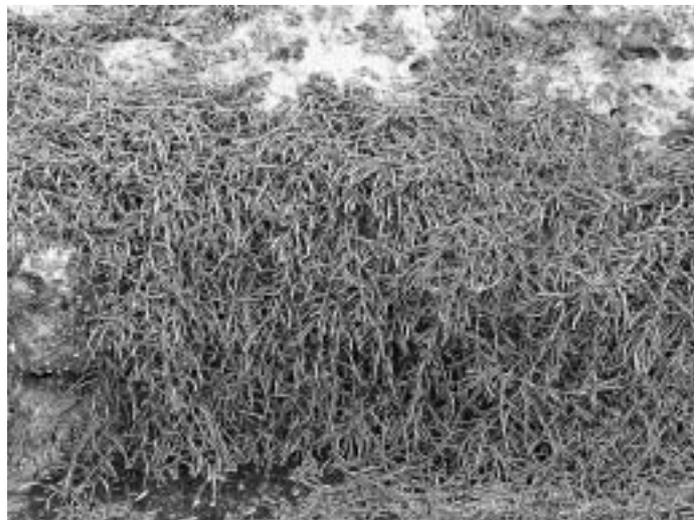
（奥野淳兒）

藻類

ヒジキ *Sargassum fusiforme*

海の博物館前の潮がひいた磯を春から初夏にかけて一面に茶色く染める海藻があります。ヒジキです。ヒジキは褐藻ホンダワラ類の一種で、北海道南部から沖縄まで広く分布しています。長さは1 m以上にもなり、生きているときは黄色をしています。ヒジキは一般の人にもなじみの深い食用海藻のひとつで、2～3月頃には、まだみずみずしいヒジキを漁師さんたちが鎌で刈り取る風景が見られます。採取されたヒジキはそのままでは固く、渋みもあり食用には適しません。長時間真水と一緒に蒸してから乾燥することによって製品になります。そして蒸したヒジキは黒くなります。ヒジキは5月頃になると雌雄の生殖器官を作り、受精した後は、枯れて急速に小さくなります。しかし付着器付近は生き残って、9月頃からまた成長を始めます。そのため、漁師さんたちは必ず鎌でヒジキを刈り取り、付着器を残すようにしています。そうすれば来年用のヒジキを残すことができるのです。夏にはとても小さくてどれがそれなのかわからないかもしれませんが、18年3月18日開催予定の観察会「海藻を観察しよう」では、長く成長したヒジキを見ることができるでしょう。もしかしたら、漁師さんたちがヒジキを刈る姿も見られるかもしれません。

（菊地則雄）



(2) 展示の更新

・こんなのみたよ！

このコーナーでは、来館者や地元の方々から寄せられた生きものの情報を紹介しています。今年度は、特に博物館の近くの子どもたちから、黒潮に乗って遠く南の海から流されてきて砂浜に打ち上がった、植物の実やイカの甲などの情報が寄せられました。砂浜に打ち上がった物を探して歩くことを「ビーチコーミング」と言いますが、このように南の海から流されてきた物は、浜を毎日のように注意しながら歩いていないとなかなか見つけられない貴重なものです。みなさんもお近くの浜で試してみたいかがでしょうか。めずらしい物を拾ったら、ぜひ海の博物館「こんなのみたよ！」コーナーまで情報をお寄せ下さい。



みたよカードNo. 109 コブシメの甲



みたよカードNo. 111 ベンケイガニ



みたよカードNo. 113 サメハダホウズキイカ



みたよカードNo. 117 コハクチョウの幼鳥

平成16年度に紹介した話題			
107	ゴマフアザラシ	108	アダンの実
109	コブシメの甲	110	ギンカクラゲの色彩変異体
111	ベンケイガニ	112	ハナオコゼの卵帯
113	サメハダホウズキイカ	114	ゴバンノアシの実
115	ワカバグモ	116	ムシノスチョウジガイ
117	コハクチョウの幼鳥		

(数字は開館時からの通し番号です)

・こんな研究をやっています

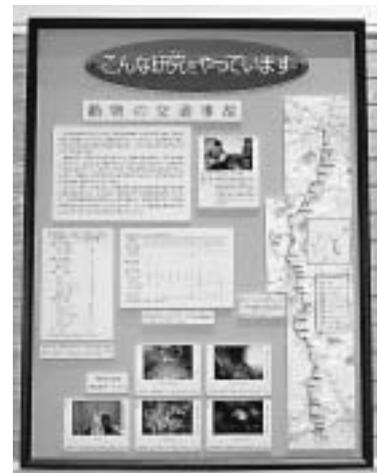
海の博物館の研究員は、それぞれの専門を活かして、海の生きものに関する調査研究を行っています。その成果は展示や教育普及に活用されますが、ではいったいどのような研究をしているのかは、一般の方々にはあまり知られていないと思います。そこで、このコーナーでは、研究員の研究テーマやその成果を紹介しています。ここで紹介しているささやかな成果の積み重ねで、講座を行ったりマリンサイエンスギャラリーを開催したりすることができるのです。



非造礁性イシサンゴ類の研究 (立川浩之)



オーストラリア温帯域に生息するカワハギ類の繁殖行動 (川瀬裕司)



動物の交通事故 (乃一哲久)

・トピック展示

展示室や受付カウンターなどで、採れたばかりの生きものを展示するのがトピック展示です。今年度は表のような生きものを展示しました。



博物館近くに住む漁師さんの刺網でとれたホシマンジュウガニ

平成16年度に紹介した話題
さまざまな非造礁性イシサンゴ類の標本 (平成16年 4/1 ~ 6/30)
磯で見られるウミウシたち (平成16年 5/9 ~ 5/13)
カツオノエボシ (平成16年 5/28)
どこが違う? よく似た日豪のカワハギ2種 (平成16年 7/1 ~ 9/30)
ヤマカガシの脱皮殻 (平成16年 7/1 ~ 7/4)
ニホンマムシ (平成16年 7/29)
ウデナガクモヒトデ (平成16年 8/3 ~ 8/27)
イソギンチャクと暮らすクマノミたち (平成16年 8/7 ~ 10/24)
ホシマンジュウガニ (平成16年 8/8 ~ 10/26)
ベンケイガニ (平成16年 8/28 ~ 9/5)
温帯の海・シドニーの魚 (平成17年3/29 ~ 展示中)

(3) マリンサイエンスギャラリー

マリンサイエンスギャラリーは、毎年異なったテーマで海の生きものを深く掘り下げて紹介する、当館の企画展示です。今年度の展示のようすは、2 ~ 3ページをご覧ください。

(4) 体験学習指導員の活動

・展示室の歩き方

「展示室の歩き方」は展示室一周をわかりやすく案内する展示解説です。展示物の基本説明の他にお客様から伺った話や、地元勝浦ネタなどの余談話も入る気軽な雰囲気での解説です。また、小さなお子様がいらっしゃる場合にはクイズ形式で解説をすることもあります。そのうちの一つに、館山の海底コーナーでミツボシクロズメダイという魚がジオラマ内のどこに隠れているかという問題を出すことがあります。この問題をノーヒントで答えられた方は今のところ1人もいらっしゃいません。この問題に挑戦してみたいという方、解説を聞いてみたいという方は定時に受付前にお越しください。



・海の体験コーナー

「海の体験コーナー」は海にまつわる簡単な工作や実験をする約20分間の行事です。草花の押し花のようなものを海藻を材料に作る「海藻おしばを作ろう」、絵の具を使って布の上にサンゴの模様を写しとる「コーラルプリントをしよう」、シラスパックの中に混ざっている小さな生きものを探し出す「シラスをしらべよう」の三種類があります。海藻おしばは新しい趣味をさがしている大人の女性に、コーラルプリントはお絵かきや塗り絵が好きな女の子に、シラスをしらべようは理科好きな男の子に特に人気があるようです。勿論、偶然やっていたので参加してみたという方でも充分楽しんでいただけたと思います。海の体験コーナーは月に2 ~ 3回行っていますので是非ご参加ください。



展示室でみられる十脚甲殻類（エビ、ヤドカリ、カニ）

海の博物館の展示室はわずか346種の広さながら、その中には房総の海の生きものの情報が凝縮されています。ここに暮らす個々の生きものについては、はく製、標本、レプリカ、写真などで展示されています。展示室は、房総半島を取り囲む海の紹介に始まり、外房と南房総の特徴的な海のようなジオラマ（景観模型）によって再現し、海の博物館周辺で見られる生きものの顔ぶれの紹介と続いています。つまり、この展示室は生息場所ごとにコーナーが設けられているため、同じ仲間分類される生きものでも、まったく別のコーナーに展示されているのです。そこで、ここでは分類群ごとに展示室の中で紹介されている生きものを追ってみましょう。誌面の都合上、今回取り上げる分類群は、エビやヤドカリ、カニなどの十脚甲殻類に絞り込みたいと思います。

展示室に入って、まず目につくエビ・カニといえば、「房総の海」の進行方向右手の壁に飾られた大きなイセエビのはく製でしょう。イセエビは、外房を代表する海の幸のひとつです。消費量が多く、今ではここに展示してあるほどの立派な大きさのイセエビにはなかなかお目にかかることはできません。このイセエビが海底でどのような生活をしているか、ということは、次の「さまざまな海の姿」の“勝浦のカジメ海中林”のジオラマをご覧くださいとわかります。岩の隙間からこちらを向くイセエビを探してみてください。また、このジオラマの岩の隙間では、小さな赤いエビが群れているようすが再現されています。これは、サラサエビというエビです。この種が新種として記載されたときに使われた重要な標本は、勝浦に隣接する小湊で採集されたものです。ひそかに、サラサエビは外房の海と縁の深いエビなのです。

「さまざまな海の姿」には、展示室で一番大きなカニの標本が展示されています。“東京海底谷”の半地下になったジオラマをご覧ください。この中に、タカアシガニという、脚を広げたときの大きさが世界最大の節足動物（エビやカニばかりでなく、昆虫やクモ、サソリなども含めた動物のくくり）が鎮座しています。房総半島の周辺では、展示室で紹介している東京海底谷ばかりでなく、小湊から鴨川にかけての沖にある鴨川海底谷にも生息しています。「さまざまな海の姿」では、他にも干潟でよく見られるカニ類を“夷隅川の河口干潟”のジオラマ、スキューバダイビングを楽しむ人に馴染みのあるオルトマンワラエビやニシキテッポウエビを“館山の海底”のジオラマで紹介しています。これらのジオラマでは、はく製やレプリカで展示されているエビやカニが、実際に野外ではどのように暮らしているのか、ということ映像でも紹介しています。

次のコーナー「博物館をとりまく自然」で紹介されているエビやカニの仲間の多くは、博物館の前の磯に干潮時にできる潮だまりで生きている姿を観察できます。壁面を彩るさまざまな標本のうち、トウヨウヤワラガニに注目してみてください。このカニ、わずか1cmほどですが、これでも立派なおとなです。同じ房総の海にもタカアシガニのように巨大なカニからトウヨウヤワラガニのように小さなカニまで、さまざまな種類が暮らしているのです。さまざまな種類の生きものが暮らせるということは、それだけ房総を取り囲む海が複雑で多岐に渡るということなのです。また、“潮下帯”のセクションで紹介されているショウジンガニは、房総では“イソツビ”の名前で親しまれています。もちろん、本誌の名前はこのカニにちなんだものです。

最後のコーナー「海と遊ぼう」では、“音を聞こう”の中に、とあるカニがとある行為によって出す音がクイズになっています。さて、そのカニの正体は...？

ここでは紹介しきれませんでした。展示室をじっくり探訪すれば、まだまだたくさんエビやカニをご覧ください。



イセエビ（はく製）



カジメ海中林のジオラマ内にあるサラサエビの群れ（レプリカ）



東京海底谷のジオラマ内にあるタカアシガニのはく製



トウヨウヤワラガニ（標本写真）

2 教育普及活動

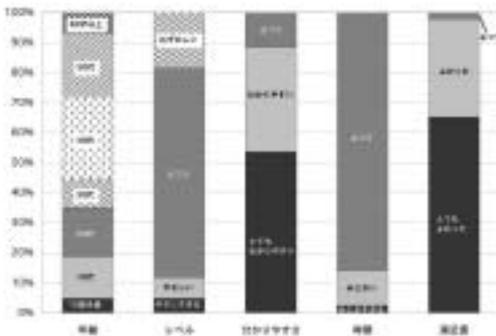
(1) 講座・観察会・フィールドトリップ・バックヤードツアー・飼育室ツアー

今年度は講座10回、観察会15回、フィールドトリップ11回、バックヤードツアー7回を開催しました。(13ページ一覧表参照)。また、子供会などのリクエストに応じて、団体を対象としたフィールドトリップを2回実施しました。今年度はさらに、夏休み期間中に飼育室ツアーを10回行いました。



アンケートの結果と参加者の声

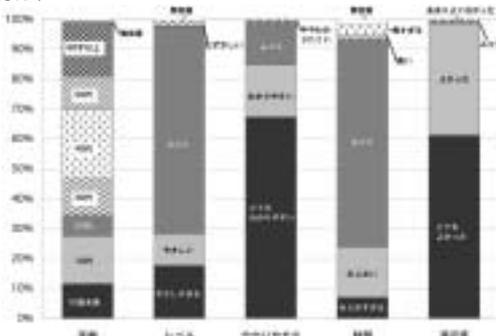
講座



参加者の声

蘆本日はたいへんありがとうございました。本でしか知らなかったワカメの遊走子とか見ることができたいへん有意義でした。来年も講座を開くようでしたら参加させていただきたいと思います。(講座「顕微鏡で海藻を観察しよう」、50代女性)

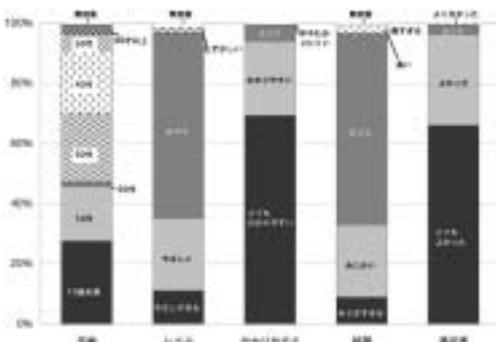
観察会



蘆とってもたのしくできました螢また、来たいです螢クラゲがこわかったです螢海の中が、みれてとってもよかったです螢(観察会「水中メガネで海の生きものを観察しよう」、10代女性)

蘆目の前の海で採集したウミウシを、すぐに顕微鏡で観察できて、とても満足です。個人的にウミウシの目が見られてうれしかったです。(観察会「ウミウシを探そう」・講座「ウミウシを観察しよう」、20代女性)

フィールドトリップ



蘆ふだん磯遊びでも気がつかないような、興味深い話を沢山聞くことができました。とても楽しかったです。又是非参加したいです。(フィールドトリップ「磯の生きもの」、40代男性)

蘆普段見ることの出来ないモノがいろいろ見れたのしかったです。(バックヤードツアー、30代女性)

蘆なまこに水をかけられてびっくりしました。でもたのしかったです。(飼育室ツアー、小学生女性)

平成16年度実施一覧

講座実施一覧

実施日	時間	タイトル	内容	講師	参加者名
H16. 4.18 豕	10:30~15:00	顕微鏡で海藻を観察しよう	顕微鏡を使って、海藻の体のつくりなどを観察します。	菊地則雄	4
H16. 5. 8 狸	13:30~15:30	ウミウシを調べよう	同日に行った観察会で採集した種類を中心に、ウミウシの体のつくりを観察します。	立川浩之	13
H16. 6.19 狸	13:00~15:00	親子で魚拓を作ってみよう	親子で魚拓作りにチャレンジします。	乃一哲久	6
H16. 7.31 狸	12:30~14:30	親子で磯の生きものを観察しよう	同日に行った観察会で採集した種類の名前調べなどをします。	村田明久	10
H16.11.13 狸	13:30~15:30	海辺の野鳥	博物館周辺の海辺で見られる野鳥の分類や生態について解説します。	桑原和之	11
H16.11.27 狸	13:30~15:30	ちょっと変わった魚の繁殖行動	魚の面白い子育ての様子をスライドやビデオを使って紹介します。	川瀬裕司	4
H16.12.12 豕	10:00~12:00	ダイバーのためのハゼ講座	釣り人やダイバーに馴染みの深いハゼの仲間についてさまざまな話題を紹介します。	藍澤正宏	10
H16.12.12 豕	13:00~15:00	ダイバーのための甲殻類講座	ダイバーに人気のあるエビやカニをスライドやビデオを使って紹介します。	奥野淳兒	6
H17. 1.22 狸	10:00~12:00	クジラの雑学講座	クジラに関する動物学や、水産学、民俗学的な話題を紹介します。	藍澤正宏	3
H17. 3.12 狸	13:30~15:30	海鳥	博物館周辺の海辺で見られる海鳥について解説します。	桑原和之	6

観察会実施一覧

実施日	時間	タイトル	内容	講師	参加者名
H16. 4.11 豕	13:00~15:00	親子で磯の生きものを探そう 入門編	潮のひいた磯へ出て、生きものを見つけ方などを紹介します。	川瀬裕司	21
H16. 5. 8 狸	10:30~12:30	ウミウシを探そう	海の博物館前の磯でウミウシを探して観察します。	立川浩之	13
H16. 5.16 豕	10:00~15:00	鵜原理想郷 春の植物	鵜原理想郷で春に見られる植物を観察します。	野口昭造	7
H16. 6.27 豕	10:00~15:00	鵜原理想郷 夏の植物	鵜原理想郷で夏に見られる植物を観察します。	野口昭造	6
H16. 7. 3 狸	10:00~12:00	勝浦のエビ・ヤドカリ・カニ	海の博物館前の磯でエビやカニを探して観察します。	奥野淳兒	8
H16. 7.18 豕	10:00~12:00	流れ藻につく稚魚を見よう	漁船に乗って勝浦市沖に漂流している流れ藻につく稚魚を観察します。	乃一哲久	荒天中止
H16. 7.25 豕	9:30~12:30	水中メガネで海の生きものを観察しよう	水中メガネをつけて、海の中の生きものを観察します。	柳 研介	24
H16. 7.31 狸	9:30~11:30	親子で磯の生きものを探そう	潮のひいた磯にどんな生きものが隠れているか、探してみよう。	村田明久	10
H16. 8. 1 豕	10:00~12:00	砂浜の魚を観察しよう	海の博物館周辺の砂浜で魚を探し、観察します。	藍澤正宏	8
H16. 8. 8 豕	10:00~12:00	親子で磯の小魚を探そう	潮のひいた磯で見られる魚を観察します。	藍澤正宏	22
H16.10. 3 豕	10:00~15:00	海の生きものの化石を探そう	県内の山間部において、さまざまな海の生きものの化石を観察します。	伊佐次鎮司	16
H16.11. 7 豕	10:00~15:00	鵜原理想郷 秋の植物	鵜原理想郷で秋に見られる植物を観察します。	野口昭造	7
H16.11.13 狸	9:30~12:30	船に乗って海鳥を観察しよう1	主に海の博物館周辺で見られる海鳥を観察します。	桑原和之	10
H17. 2. 6 豕	10:00~15:00	鵜原理想郷 冬の植物	鵜原理想郷で冬に見られる植物を観察します。	野口昭造	8
H17. 3.12 狸	9:30~12:30	船に乗って海鳥を観察しよう2	博物館周辺の海で船の上から鳥を観察します。	桑原和之	7
H17. 3.13 豕	11:00~13:30	食べられる海藻を探そう	海の博物館前の磯で食用となる海藻を探して観察します。	菊地則雄	9

フィールドトリップ・バックヤードツアー実施一覧

フィールドトリップ磯の生きもの

実施日	時間	講師	参加者名
H16. 4.10 狸	13:00~14:00	菊地則雄	9
H16. 4.24 狸	13:00~14:00	柳 研介	7
H16. 5. 4 貂	9:30~10:30	藍澤正宏	20
H16. 5.22 狸	11:30~12:30	乃一哲久	3
H16. 5.23 豕	12:30~13:30	村田明久	10
H16. 6. 5 狸	11:00~12:00	乃一哲久	0
H16. 7. 3 狸	11:00~12:00	立川浩之	0
H16. 7. 4 豕	11:00~12:00	乃一哲久	13
H16. 7.17 狸	10:00~11:00	奥野淳兒	19
H16. 8. 1 豕	10:30~11:00	川瀬裕司	18
H16. 8. 1 豕	11:30~12:00	川瀬裕司	16
H17. 3.27 豕	11:00~12:00	菊地則雄	13

フィールドトリップ博物館周辺の鳥

実施日	時間	講師	参加者名
H16.11.12 貂	14:00~15:00	桑原和之	2
H17. 3.11 貂	14:00~15:00	桑原和之	0

バックヤードツアー

実施日	時間	講師	参加者名
H16. 5. 9 豕	13:00~14:00	奥野淳兒	9
H16. 7.30 貂	9:15~10:15	藍澤正宏	13
H16. 8.28 狸	9:15~10:15	村田明久	21
H16. 8.29 豕	10:00~11:00	柳 研介	10
H16.10. 3 豕	13:00~13:30	川瀬裕司	3
H17. 1.30 豕	13:00~13:30	奥野淳兒	10
H17. 2.20 豕	13:00~13:30	菊地則雄	0
H17. 3. 6 豕	13:00~13:30	立川浩之	7

(2) 学校連携

・海的环境学習研修会



海的环境学習研修会は、海の生きものや自然を対象とした校外学習を企画実践するための基礎的知識を学校の先生方に習得してもらうことを目的に毎年夏休みに開催しています。本年度は、千葉県総合教育センターとの共催事業「海の生物と環境講座」として、8月2日（基礎編）・3日（応用編）・25日（発展編）の3日間にわたって行いました。基礎編では磯観察の基礎および生きもののお名前調べ、応用編では磯の生きもの

の分布調査とマップ作り、応用編ではプランクトン採集道具の製作と採集および顕微鏡での観察というメニューで、それぞれ野外での体験と室内での研修を行っていただきました。

・野外実習授業

このプログラムは、学校教員と当館研究員が共同で磯観察などの校外学習を実施するものです。本年度は、29校からの申し込みがあり、日程が調整できた14校からの希望を受理し、磯で生きものを探しながらの解説や、室内で顕微鏡や水槽を使った観察を行いました。このうち、海の博物館へ来館いただき、目の前の磯で生きものの観察を行った学校が9校、研究員が県内の別の場所へ出向き、学校や学校の近くの海で磯観察や室内での授業を行った学校が5校でした。実習をした子どもたちは、当館研究員でもめったに見ることのできない珍しい生きものを見つけるなど、磯での観察に熱中していました。

・児童や生徒からの質問に回答する

学校連携の一環として、来館した児童・生徒からの質問に回答するプログラムも実施しました。これは、事前に質問を博物館へ提出していただき、その後来館した児童・生徒へ研究員が直接回答するというものです。本年度は5校（小学校2校、中学校1校、高等学校2校）を対応しました。

(3) 広報

・刊行物

本誌「いそび通信」をはじめ、今年度発行した当館の刊行物を下の表にまとめました。また、日本財団の助成により、マリンサイエンスギャラリーの展示図録（写真下）を作りました。



シリーズ	タイトル
-	マリンサイエンスギャラリー「イソギンチャクの世界」ポスター
-	マリンサイエンスギャラリー「イソギンチャクの世界」リーフレット
マリンサイエンスギャラリーワークシート	イソギンチャククイズ その1～その4
展示解説シート21	ペンキのような海藻
海の生きもの観察ノート4	魚の繁殖行動を観察しよう
-	平成17年度開催行事のご案内
展示解説シート22	温帯の海・シドニーの魚
分館海の博物館ニュースレター	いそび通信No.6（平成16年度版）

・ホームページ

海の博物館のホームページでは、博物館の施設や展示内容紹介はもちろん、年間の行事予定、博物館の収蔵資料や調査研究活動の紹介など、さまざまな情報を発信しています。今年度の主な更新点は、スタッフ紹介のページの新設と、博物館周辺の磯で見られる生きものを紹介するページの大幅なりニューアルです。ぜひ一度お立ち寄り下さい。

海の博物館のホームページ

<http://www.chiba-muse.or.jp/UMIHAKU/index.htm>

・メールマガジン

平成17年3月から、海の博物館メールマガジン「海からのたより」が創刊されました。展示の更新情報や行事のご案内など、海の博物館の最新情報や、海の生きものに関する話題などをお届けしていきます。購読は無料です。

お申し込み・解除、お問い合わせは下のアドレスにご連絡下さい。

Eメールアドレス umihaku@chiba-muse.or.jp

更新されたホームページ画面



(4) 館外での講演等

海の博物館研究員は、他機関からの依頼を受けて当館以外の場所でも講演や実技指導を行うことがあります。今年度は、下表のような活動を行いました。

日付	主催	行事名	演題・内容	場所	演者
H16. 5.23 豕	浦安市郷土博物館	観察会	海藻の観察会	浦安市日の出海岸 (浦安市)	菊地則雄
H16. 6. 6 豕	浦安市郷土博物館	観察会	浦安の海のカニ・エビの観察	浦安市日の出海岸 (浦安市)	奥野淳兒
H16. 7.24 狸	千葉県立安房博物館	海の日講演会	さかなの子どものはなし	千葉県立安房博物館 (館山市)	乃一哲久
H16. 9.13 豺	千葉県生涯大学校	博物館文化セミナー	魚たちの巧みな子育て	千葉県生涯大学校京葉学園 (千葉市)	川瀬裕司
H16. 9.18 狸	千葉県立博物館	千葉学講座	～水中に咲く花～イソギンチャクの世界	千葉県立中央博物館 (千葉市)	柳 研介
H16.11.14 豕	鴨川青年の家	青年の家まつり	海藻おしばでしおりをつくらう	鴨川青年の家 (鴨川市)	立川浩之他
H16.12.14 貂	NPO法人千葉自然学校	修学旅行誘致促進にかかわる座談会	雨の日でも出来る海藻アート	千倉町漁村センター (千倉町)	菊地則雄

(5) 報道関係対応一覧表

月	日	取材者名	当館担当者	掲載誌・放映日	タイトル・内容
4	2	NHK千葉放送局	村田明久	平成16年4月2日	「ひるどき情報ちば」(展示更新の情報)
	7	光文社「FLASH」編集部	乃一哲久	「FLASH」5月21日号	「潮干狩り&磯遊び図鑑」
	23	「Harvest Times」(東急リゾートサービス)	奥野淳児	平成16年6月10日	「房総の海とふれあう『海の博物館』」
	23	「理科教室」編集部	奥野淳児	「理科教室」7月号	「磯の生きものが観察できる博物館」
5	8	「レタスクラブ」編集部	村田明久	「レタスクラブ」臨時増刊号(7月20日)	「どんな生き物が見つかるかな? 磯遊びにチャレンジしてみよう」
	8	千葉テレビ	立川浩之	平成16年5月8日	「CTCニュース」(磯観察の紹介)
6	10	千葉県観光協会	立川浩之		千葉県観光協会ホームページに写真掲載
	12	「ミレーニアだより」(ミレーニア勝浦)	村田明久	「ミレーニアだより」7月号	施設・活動の紹介
	15	「国土交通」編集部	立川浩之	「国土交通」8月号	「博物館への誘い-千葉県立中央博物館分館 海の博物館」
	30	「月刊ガルヴィ」	村田明久	「月刊ガルヴィ」9月号	磯遊びおよび海藻押し葉つくりの紹介
7	17	朝日新聞	奥野淳児	平成16年7月24日	「ウイークエンドかがく『博物館さいえんすナビ』(フィールドトリップの紹介)
	19	テレビ朝日「すてきな宇宙船地球号」	立川浩之	平成16年9月5日	深海サンゴに関する情報提供
	31	千葉県史料研究財団	村田明久		千葉県史動物写真集に写真掲載予定
8	24	毎日新聞	村田明久	平成16年8月31日	「遊ぶAmusement『海の自然に触れる』(体験コーナーの紹介)
	27	インターボイス(テレビ番組制作会社)	川瀬裕司	平成16年10月3日	カワハギの生態に関する取材
9	24	「るるぶ」編集部	立川浩之	「るるぶ千葉房総'05版」	写真掲載
	28	ニューファミリー新聞	立川浩之	平成16年10月22日	写真掲載・行事紹介
10	12	「月刊ワゴニスト」編集部	柳 研介	平成16年11月1日	写真掲載
	15	NHKテレビ「地球!ふしぎ大自然」	乃一哲久	平成16年12月6日	資料提供
	28	「るるぶ情報版」編集部	立川浩之	「るるぶ情報版ドライブ千葉・房総・茨城」(12月発行)	写真掲載
	29	産経新聞・朝日新聞・千葉日報・勝浦市企画広報課	柳 研介 他		マリンサイエンスギャラリー内覧会の取材
	31	千葉テレビ	柳 研介	平成16年11月5日	「ウイークリー千葉県」(マリンサイエンスギャラリーの紹介)
11	28	朝日新聞	菊地則雄		アサクサノリの養殖に関する取材
12	3	NHK	立川浩之	平成16年12月6日	「こんにちはいっと6けん」(マリンサイエンスギャラリーの紹介)
	14	毎日新聞	立川浩之	平成17年1月5日	マリンサイエンスギャラリーの紹介
	15	「月刊ぐるっと千葉」編集部	立川浩之	「ぐるっと千葉」2005年3月号	南房総特集に写真掲載
	17	「BE-PAL」編集部	立川浩之	「BE-PAL」2005年3月号	「BE-PAL流水族館の遊び方」
	20	朝日新聞	柳 研介	平成17年1月7日	「不思議な形だね イソギンチャク」(マリンサイエンスギャラリー紹介)
	28	読売新聞	柳 研介		マリンサイエンスギャラリーの取材
1	7	「週刊新潮」編集部	菊地則雄	平成17年1月13日	アサクサノリの養殖に関する情報提供
	8	フジテレビ「トリアの泉」	柳 研介		イソギンチャクの水槽撮影
	15	TBSテレビ「どうぶつ奇想天外」	柳 研介	平成17年1月30日	ハナギンチャクに関する資料提供
	21	TBSテレビ「どうぶつ奇想天外」	奥野淳児	平成17年3月6日	ヤドカリの生態ビデオ撮影
	21	日本テレビ「どっちの料理ショー」	菊地則雄	平成17年3月3日	アサクサノリの写真提供
2	25	国土交通省「うみかぜだより」	村田明久	「うみかぜだより」2005年夏号	(写真掲載予定)

(6) その他の海の博物館関連記事

掲載誌名	掲載号	タイトル・内容
「月刊ぐるっと千葉」	平成16年度各号	行事案内
「広報かつら」	平成16年度各号	行事案内
「2004年度版 南房総・三浦」(東京湾フェリー)		「ガイド南房総『海の博物館』」
「Green Museum 彩の美術館」	2004年夏号	「自然の宝庫 海の博物館」
千葉日報	平成16年 4月14日	「三番瀬でゴカイの新種」(海の博物館に標本が収蔵)
朝日新聞	平成16年 4月24日	「水辺の生物 こんにちはいっと6けん」(博物館さいえんすナビ)
東京新聞	平成16年 8月 7日	「珍生物見~つけ」(ナガウニカニダマシの紹介)
房総ファミリア新聞	平成16年 8月 7日	「FAMILIA INFORMATION 自然とふれあいながら学ぶ」
毎日小学生新聞	平成16年 9月10日	「亜熱帯の珍生物 ナガウニカニダマシを発見!」
毎日小学生新聞	平成16年11月 3日	「発見! 新種のエビ」(アカホシカクレエビの紹介)
東京新聞	平成16年11月28日	「幻のアサクサノリ復活」(海の博物館から糸状体を提供)
千葉日報	平成16年11月29日	「県が修学旅行誘致でモニターツアー」(海の博物館での海藻押し葉体験を紹介)

3 資料収集活動

(1) 志津川湾無脊椎動物相調査

6月1日～5日までの5日間、宮城県の志津川湾にて無脊椎動物相の調査を行いました。志津川湾は三陸海岸の南部に位置し、本州太平洋沿岸で、最も水温の低い海域の一つで、今年度から始まった房総半島の北方系生物相調査との比較調査地として選ばれました。この調査は、現地の志津川町自然環境活用センターの全面的なバックアップを受けて行われました。

調査は、志津川湾の北岸に位置する荒島、湾中央部に位置する竹島、椿島、自然環境活用センターのある湾の南岸、さらに湾口外側に位置する神割崎、湾奥部の折立川河口干潟の各地にて行いました。房総半島では見られない、北方系の生物を採集することが出来ました。この調査は、平成17年度も引き続き行われることになっており、その後、みなさまに調査結果をご報告できる予定です。



(2) 収集資料の紹介

当館研究員・川瀬は、日本学術振興会の特定国派遣研究者の制度を利用して、平成17年2月1日から3月2日までオーストラリアのシドニーへ行ってきました。シドニーの海は温帯性で、年間の水温変化は日本の海と似ているところもありますが、そこに生息している生きものの種類は全く異なり、この地域にしか生息しない固有種もたくさん見られます。その中で今回はカワハギ類の繁殖行動について潜水調査しました。その際、カワハギ類をはじめ、数多くの固有種の映像資料と標本資料を収集することができました。これらは博物館資料として登録する一方、近々講座や展示を通してみなさんに公開する予定です。



産卵直前のピグミーレザージャケット（手前がオス）



レインボーケールのオス

(3) 資料登録点数

資料登録点数（平成17年3月31日現在）

資料名	登録点数	資料名	登録点数	資料名	登録点数
海綿動物	238	甲殻類	1,819	種子植物	56
刺胞動物	3,881	棘皮動物	1,272	写真資料	10,754
環形動物	2,030	その他の無脊椎動物	205	動画資料	920
貝類	5,259	魚類	9,884	図書資料	1,452
頭足類	230	藻類	5,838	合計	43,838

(4) 提供資料の紹介

サメハダホウズキイカ *Cranchia scabra*

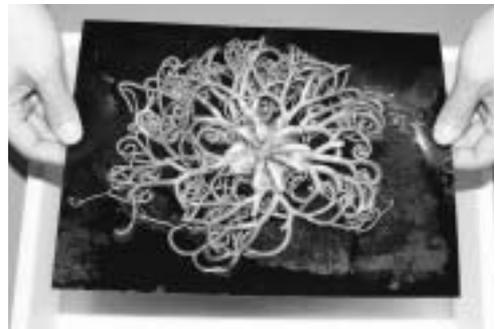
この標本は、千葉県館山市洲崎で定置網漁を行っている大漁丸・渡辺俊也さんから見慣れないイカが網に入りました、と2004年4月1日に海の博物館に持参して頂きました。イカの大きさ8cm程度で、まだ死んで間もない状態で、直ぐに写真撮影を行いました。このイカの種類はサメハダホウズキイカで、体の形、鰭が非常に小さく楕円形、眼の回りに小さな発光器が2列に並ぶことや体表面(外套膜)が軟骨様の星状突起で密に覆われているのが特徴で、世界中の温帯・熱帯海域の中層に生息しています。日本では相模湾以南の太平洋岸から報告されています。



サメハダホウズキイカ 千葉県館山市洲崎産

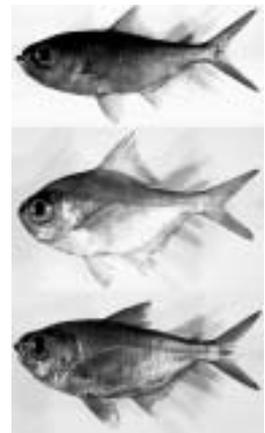
テヅルモヅル属の一種

テヅルモヅルとは何とも変わった名前の生きものです。実物を見てもたくさんの枝のようなものが絡まり合っていて何の仲間か想像しにくいかもしれません。しかし、よく観察すると、中央部にある板状の部分からはじめに放射状に5本の腕が出て、それぞれの腕が繰り返し分岐しているという体のつくりがわかります。5本の腕があることから想像されるように、テヅルモヅルは棘皮動物の仲間、クモヒトデと同じグループに属する生きものなのです。写真の標本は勝浦市沖の水深約500mのところから釣り針にひっかかって採集されたもので、勝浦市吉尾の中村和正さんから提供していただきました。



“ヒラキン”の正体

キンメダイ漁を行っている常清丸・海老根智央さんから勝浦周辺で“ヒラキン”もしくは“イタキン”と呼んでいる魚を頂きました。もちろんヒラキンもイタキンも方言で、そのような名前の魚は図鑑には載っていません。この魚は、キンメダイに混じって捕れるのだそうですが、勝浦ではキンメダイの品質を維持するために市場には出さないそうです。ヒラキンは、一見、色も形もキンメダイにそっくりです。しかし、よく見るとキンメダイよりも平べったく、これによって漁師さんもキンメダイとは区別しています。そこで、この魚の正式名称を知るために頂いた魚を詳しく調べてみました。その結果、勝浦のヒラキンは単一種ではなく、これにはナンヨウキンメとフウセンキンメの2種が混ざっていることが解りました。どちらの魚もこれまで房総半島周辺からは採集記録がなかった種類です。



上：キンメダイ
中：ナンヨウキンメ
下：フウセンキンメ

(5) 資料の貸し出し

本年度は、展示用として雌雄一対のイッカク骨格標本を福井市自然史博物館に、研究用として魚類標本61点、甲殻類標本9点、棘皮動物標本23点を国立科学博物館、高知大学、琉球大学などに貸し出しました。また、NHKテレビで放映された「地球！不思議大自然 - まぼろしのクジラ・イッカク大集合 凍らない謎の海 -」では、当館のイッカク骨格標本の写真が使用されました。

海の博物館に収蔵されているタイプ標本

The list of the type specimens stored in CMNH

国際的なルールとして、生きものの新種を報告するときには、そのもととなる標本をタイプ標本（模式標本）として指定し、博物館等の研究施設に保管することが義務づけられています。「種」というのは、たった1個体に基づいて規定されることになっているため、この1個体をホロタイプ（holotype）、その他必要に応じて、同時に使用した標本からパラタイプ（paratype）を指定します。これらのタイプ標本群は、学術的に非常に重要で、海の博物館でも厳重に保管されています。現在（平成16年度末時点）海の博物館では、26種類計95点のタイプ標本（内ホロタイプ17点）が保管されています。

刺胞動物門 CNIDARIA

花虫綱 ANTHOZOA

イソギンチャク目 ACTINIARIA

ウメボシイソギンチャク科 Actiniidae

Anthopleura atodai Yanagi & Daly, 2004

holotype	CMNH-ZG 00064 : 1	(with histological sections and cnidae preparations)
paratypes	CMNH-ZG 00044 : 1	(with cnidae preparations)
	CMNH-ZG 00065 : 1	(with cnidae preparations)
	CMNH-ZG 00115 : 1	(with cnidae preparations)
	CMNH-ZG 00200 : 1	(entirely sectioned transversely)
	CMNH-ZG 00209 : 1	(with histological sections and cnidae preparations)
	CMNH-ZG 00210 : 1	(with cnidae preparations)
	CMNH-ZG 03692 : 1	(entirely sectioned longitudinally)
	CMNH-ZG 03693 : 1	(entirely sectioned transversely)
	CMNH-ZG 03695 : 1	(entirely sectioned longitudinally)
	CMNH-ZG 03692 : 1	(entirely sectioned transversely)
	CMNH-ZG 03693 : 1	(entirely sectioned transversely)

イシサンゴ目 SCLERACTINIA

キサンゴ科 Dendrophylliidae

Dendrophyllia paragracilis Ogawa & Takahashi, 2000

holotype CMNH-ZG 00310 : 1 colony (10 matured coralites, 6 young coralites)

環形動物門 ANNELIDA

多毛綱 POLYCHAETA

サンバゴカイ目 PHYLLODODICA

シリスコ科 Syllidae

Alcyonosyllis glasbyi San Martin & Nishi, 2003

holotype	CMNH-ZW 01399 : 1
paratypes	CMNH-ZW 01461 : 1
	CMNH-ZW 01462 : 1 (stolon)

ゴカイ科 Nereididae

ヒメヤマトカワゴカイ *Hediste atoka* Sato & Nakashima, 2003

paratypes	CMNH-ZW 01889 : 1	(mature male)
	CMNH-ZW 01890 : 1	(mature female)

ヤマトカワゴカイ *Hediste diadroma* Sato & Nakashima, 2003

paratype	CMNH-ZW 01891 : 1	(mature swarming female)
----------	-------------------	--------------------------

Eulepethidae

Grubuelepis malayensis Nishi, 2001

holotype	CMNH-ZW 00248 : 1
----------	-------------------

ツバサゴカイ目 CHAETOPTERIDA

ツバサゴカイ科 Chaetopteridae

Chaetopterus japonicus Nishi, 2001

holotype	CMNH-ZW 00101 : 1	(with incomplete tube)
paratypes	CMNH-ZW 00102 : 1	(with complete tube)
	CMNH-ZW 00103 : 1	(with complete tube)
	CMNH-ZW 00104 : 1	(without region-A, with complete tube)
	CMNH-ZW 00105 : 1	(with complete tube)
	CMNH-ZW 00106 : 1	(with complete tube)
	CMNH-ZW 00107 : 1	(with fragments of tube)
	CMNH-ZW 00108 : 1	

Spiochaetopterus sanbanzensis Nishi, Bhaud & Koh, 2004

paratypes	CMNH-ZW 01531 : 1
	CMNH-ZW 01532 : 1
	CMNH-ZW 01533 : 1

オフエリアゴカイ目 OPHELIIDA

オフエリアゴカイ科 Opheliidae

Euzonus japonicus Misaka & Sato, 2003

paratype	CMNH-ZW 01939 : 1
----------	-------------------

フサゴカイ目 TERESELLIDA

カンムリゴカイ科 Sabelanidae

Lygdamis wirtzi Nishi & Nunez, 1999

holotype	CMNH-ZW 00050 : 1
paratypes	CMNH-ZW 00051 : 1
	CMNH-ZW 00052 : 1

Sabellaria tottoriensis Nishi, Kato & Hayashi 2004

holotype	CMNH-ZW 01515 : 1
paratypes	CMNH-ZW 01507 : 1
	CMNH-ZW 01508 : 1
	CMNH-ZW 01509 : 1
	CMNH-ZW 01510 : 1
	CMNH-ZW 01511 : 1
	CMNH-ZW 01512 : 1
	CMNH-ZW 01513 : 1
	CMNH-ZW 01514 : 1

節足動物門 ARTHROPODA

蔓脚亜綱 CIRRIPIEDIA

無柄目 SESSILIA

サンゴフジツボ科 Pyrgomatidae

Galkinia supraspinulosa Ogawa, 2000

holotype CMNH-ZC 00333 : 1 ex.

軟甲綱 MALACOSTRACA

十脚目 DECAPODA

サラサエビ科 Rhynchocinetidae

オオサンゴサラサエビ *Rhynchocinetes striatus* Nomura & Hayashi, 1992

paratypes	CMNH-ZC 00096 : 1
	CMNH-ZC 00097 : 1
	CMNH-ZC 00117 : 1

サンゴエビ科 Stylocodactylidae

Neostylocodactylus littoralis Okuno & Tachikawa, 2000

holotype	CMNH-ZC 00071 : 1 ovig.
paratypes	CMNH-ZC 00103 : 1 ovig.
	CMNH-ZC 00119 : 1 ovig.

テナガエビ科 Palaemonidae

ハチジョウクラヤマシカレエビ *Palaemonella hachijo* Okuno, 1999

holotype CMNH-ZC 00017 : 1

シオサイカレエビ *Periclimenes dolichosternum* Okuno & Mitsuhashi, 2003

holotype	CMNH-ZC 00855 : 1
paratypes	CMNH-ZC 00767 : 1 ovig.
	CMNH-ZC 00801 : 1
	CMNH-ZC 00802 : 1
	CMNH-ZC 00931 : 1 ovig.
	CMNH-ZC 00791 : 1 , 1 ovig.
	CMNH-ZC 00856 : 2

ハクセンアカホシカレエビ *Periclimenes kobayashii* Okuno & Nomura, 2002

holotype	CMNH-ZC 00536 : 1
paratypes	CMNH-ZC 00514 : 1
	CMNH-ZC 00515 : 1 ovig.
	CMNH-ZC 00537 : 1
	CMNH-ZC 00538 : 1

ナデシコカレエビ *Periclimenes sarasvati* Okuno, 2002

paratypes	CMNH-ZC 00891 : 1 ovig.
	CMNH-ZC 00892 : 1
	CMNH-ZC 00893 : 1

アカホシカレエビ *Periclimenes speciosus* Okuno, 2004

holotype	CMNH-ZC 01666 : 1
paratypes	CMNH-ZC 01555 : 1
	CMNH-ZC 01567 : 1
	CMNH-ZC 01639 : 1
	CMNH-ZC 01640 : 1
	CMNH-ZC 01641 : 1
	CMNH-ZC 01667 : 1 ovig.
	CMNH-ZC 01668 : 1
	CMNH-ZC 01700 : 1

オトヒメエビ科 Stenopodidae

アカオビスベオトヒメエビ *Odontozona fasciata* Okuno, 2003

holotype	CMNH-ZC 00777 : 1
paratypes	CMNH-ZC 01000 : 1
	CMNH-ZC 01030 : 1

ホンヤドカリ科 Paguridae

Hachijopagurus rubrimaculatus Osawa & Okuno, 2003

holotype	CMNH-ZC 00470 : 1
paratype	CMNH-ZC 00930 : 1

カシワジマヒメホンヤドカリ *Pagurixus fasciatus* Komai & Myorin, 2005

paratypes	CMNH-ZC 00929 : 1
	CMNH-ZC 01732 : 1
	CMNH-ZC 01780 : 1

アカシマホンヤドカリ *Pagurus erythrogrammus* Komai, 2003

paratypes	CMNH-ZC 00628 : 1
	CMNH-ZC 01010 : 1
	CMNH-ZC 01012 : 1
	CMNH-ZC 01013 : 1 ovig.

クロシマホンヤドカリ *Pagurus nigrivittatus* Komai, 2003

paratypes	CMNH-ZC 01008 : 1
	CMNH-ZC 01009 : 1

コシオリエビ科 Glatheidae

Galathea guttata Osawa, 2004

holotype	CMNH-ZC 01162 : 1
paratype	CMNH-ZC 01483 : 1 ovig.

ミヤビチュウコシオリエビ *Munida kawamotoi* Osawa & Okuno, 2002

holotype	CMNH-ZC 00617 : 1
paratypes	CMNH-ZC 00785 : 1
	CMNH-ZC 00786 : 1 ovig.

References

- Komai, T. (2003). *Nat. Hist. Res.*, 7:115-166.
 ---- & E. Myorin (2005). *Zootaxa*, 876:1-12.
 Martin, G.S. & E. Nishi (2003). *Zool. Sci.*, 20:371-375.
 Misaka, T. and M. Sato (2003). *Zool. Sci.*, 20:1171-1177.
 Nishi, E. (2001). *Species Diversity*, 6:1-9.
 ---- (2001). *Actinia*, 14:1-26.
 ----, M.R. Bhaud & B-S. Koh (2004). *Zool. Sci.*, 21:457-464.
 ----, T. Kato & I. Hayashi (2004). *Zool. Sci.*, 21:211-217.
 ---- & J. Nunez (1999). *Archipelago*, 17A:37-42.
 Nomura K. & K. Hayashi (1992). *Zool. Sci.*, 9:199-206.
 Ogawa, K. (2000). *Biogeography*, 2 : 29-43.
 ---- K. & K. Takahashi (2000). *Publ. Seto Mar. Biol. Lab.*, 39(1):9-16.
 Okuno J. (1999). *Proc. Biol. Soc. Wash.*, 112:739-745.
 ---- (2003). *Bull. Nat. Sci. Muse. Tokyo. Ser. A*, 28:211-222.
 ---- (2003). *Nat. Hist. Res.*, 7(2):167-180.
 ---- (2004). *Zool. Sci.*, 21(8):865-875.
 ---- & M. Mitsuhashi (2003). *Proc. Biol. Soc. Wash.*, 116:487-496.
 ---- J. & K. Nomura (2002). *Nat. Hist. Res.*, 7(1):83-94.
 ---- J. & H. Tachikawa (2000). *Proc. Biol. Soc. Wash.*, 113:39-47.
 Osawa, M. (2004). *Crustacean Res.*, 33:92-102.
 ---- & J. Okuno (2002). *Bull. Nat. Sci. Muse. Tokyo. Ser. A*, 28:129-141.
 ---- & J. Okuno (2003). *Proc. Biol. Soc. Wash.*, 116:943-955.
 Sato, M & A. Nakashima (2003). *Zool. J. Linn. Soc.*, 137:403-445.
 Yanagi, K. & M. Daly (2004). *Proc. Biol. Soc. Wash.*, 117:408-422.

4 調査研究活動

(1) 総合分野

房総半島周辺海域の海洋生物相を解明することを目的に、全研究員が一体となって行っている研究が「総合分野」の研究です。この研究では、研究員を魚類班（藍澤正宏、乃一哲久、川瀬裕司）、無脊椎動物班（立川浩之、奥野淳兒、柳 研介、村田明久）、藻類班（菊地則雄）の三つに分け、互いに協力しあって担当する分類群を調査しています。総合分野の研究は平成11年に始まり、昨年までの5年間は、房総半島南部の黒潮影響域を重点的に調査してきました。そして、本年度からは、新たに北部の親潮影響域にも重点をおいた調査を実施しています。この研究によって得られた標本や成果は、専門家の間だけで利用されるのではなく、博物館資料として展示や教育普及活動にも幅広く活用されています。

(2) 詳細分野

各研究員がそれぞれの専門分野において常に新たな学術情報を発信し続けることを目標に、個別に研究テーマを設定して行っている研究が「詳細分野」の研究です。個々の研究テーマは、藍澤正宏「ハゼ科ミミズハゼ属魚類の分類学的研究」、乃一哲久「沿岸域に出現する仔稚魚の形態と生態に関する研究」、川瀬裕司「モンガラカワハギ上科魚類の繁殖行動とその進化に関する研究」、立川浩之「日本産イシサンゴ類・生物地理に関する研究」、菊地則雄「原始紅藻亜綱植物の分類学的、生態学的研究」、奥野淳兒「日本産共生性コエビ類の分類学的研究」、柳 研介「イソギンチャク類の分類学的研究」、村田明久「フジツボ類の繁殖生態」で、研究成果は、専門の学会や学術誌において随時公表されています。

(3) 新たに報告された種

サクラコシオリエビ *Lauriea siagiani*

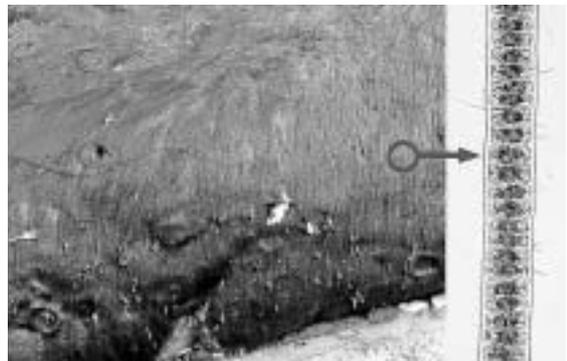
エビという名がついていますが、ヤドカリやカニダマシなどと同じ異尾類の一種で、主に東南アジアの浅海に分布しています。ミズガメカイメンやワタトリカイメンなどの表面を生活の場としており、甲の背面やはさみ脚に長い剛毛が生えていることが特徴です。本種は、スキューバダイバーの間では“ピンクスクワットロブスター”の愛称で親しまれています。2004年8月、当時国立科学博物館の研究員だった大澤正幸博士と当館研究員・奥野の共同研究によって、日本生物地理学会が刊行している学術雑誌 *Biogeography* の第6巻に、八丈島から採集され



た標本に基づき、本種を日本から初めて報告した論文が掲載されました。その際、新たな標準和名「サクラコシオリエビ」を提唱しました。

ウシケノリ *Bangia fuscopurpurea*

乾海苔の原料となるアマノリ属と近縁のウシケノリという海藻は世界中の海に生えますが、淡水にも生えており、日本では山梨県などのごく限られた場所にのみ見られ、タニウシケノリという名があります。両者は生えている所がかなり異なるにもかかわらず、同じ種だと考えられていました。当館研究員・菊地ほかが両者の形態を詳しく調べたところ、付着器部分の特徴が異なり、別種であることが明らかとなりましたので、雑誌「藻類」(日本藻類学会和文誌)の特別号で報告しました。この結果は、両者のDNAの研究結果からも支持されています。



(4) 研究業績一覧

堀江義一

堀江義一 . 2004 . 麹菌の近縁菌によるカビ毒生産性と病原性による健康リスク . 温故知新 , 41 : 15-19 .

藍澤正宏

荒尾一樹・藍澤正宏 . 2004 . 三重県尾鷲市で採集されたイドミミズハゼ . 南紀生物 , 46 (1) : 25-28 .

乃一哲久

奴賀俊光・桑原和之・乃一哲久・羽賀秀樹・竹田伸一 . 2004 . 千葉県周辺海域における繁殖期のカムリウミスズメ *Synthliboramphus wumizusume* の観察記録 . 山階鳥学誌 , 36 : 93-96 .

川瀬裕司

Kawase, H . 2005 . Fast maturity and spawning within an initial reproductive season of Japanese filefish *Rudarius ercodes* (Pisces: Monacanthidae) . Nat. Hist. Res. , 8 (2) . (印刷中)

川瀬裕司 . 2005 . 魚たちの巧みな子育て . 千葉県立博物館文化セミナー「千葉学講座」報告集 , 3 : 40-41 .

川瀬裕司 . 2005 . 温帯の海・シドニーの魚 平成16年度海外学術調査を終えて . 千葉県立中央博物館分館海の博物館展示解説シート , 22 . 1 p .

立川浩之

立川浩之 . 2004 . 千葉県鴨川市に漂着したトグロコウイカの死殻 (コウイカ目: トグロコウイカ科) . 南紀生物 , 46 (1) : 63-64 .

立川浩之 . 2004 . 海博だより - 非造礁サンゴ - . 千葉県立中央博物館友の会ニュース , (51) : 6 .

立川浩之・稲葉慎 . 2004 . 海中無脊椎動物 . In ダニエル=ロング・稲葉慎 (編) , 小笠原ハンドブック (分担執筆) . 南方新社 , pp. 81-88 .

菊地則雄

Kikuchi, N., M. Miyata and M. Notoya . 2004 . Taxonomy of the genus *Bangia* (Bangiaceae, Rhodophyta) in Japan . Jpn. J. Phycol. , 52 (Suppl.) : 163-168 .

Niwa, K, N. Kikuchi, M. Iwabuchi and Y. Aruga . 2004 . Morphological and AFLP variation of *Porphyra yezoensis* Ueda form. *narawaensis* Miura (Bangiales, Rhodophyta) . Phycol. Res. , 52 : 180-190 .

菊地則雄 . 2004 . 海博だより - 海藻の夏 - . 千葉県立中央博物館友の会ニュース , (52) : 6 .

菊地則雄 . 2005 . ペンキのような海藻 . 千葉県立中央博物館分館海の博物館解説シート , 21 . 1p .

奥野淳兒

Okuno, J . 2004 . *Periclimenes speciosus*, a new species of anthozoan associated shrimp (Crustacea: Decapoda: Palaemonidae) from southern Japan . Zool. Sci. , 21 (8) : 865-875 .

Osawa, M. and J. Okuno . 2004 . *Lauriea siagiani* Baba, 1994 (Crustacea, Decapoda, Anomura, Galatheididae) from Hachijo-jima Island, the Izu Islands, Japan . Biogeography , 6 : 57-62 .

Bruce, A. J., J. Okuno and X.-Z. Li, 2005. *Manipontonia* gen. nov., a new pontoniine shrimp genus for *Periclimenes psamathe* (De Man) (Crustacea: Decapoda: Palaemonidae) . Zootaxa, 926: 1-11.

奥野淳兒・有馬啓人 . 2004 . 伊豆諸島・伊豆大島における浅海性ヤドカリ類相 (甲殻上綱 : 十脚目 : 異尾下目) . 日本生物地理学会会報 , 59 : 49-69 .

奥野淳兒 . 2004 . 伊豆諸島八丈島初記録のワタリガニ科3種 . Cancer , (13) : 1-4 .

奥野淳兒 . 2004 . 海博だより - アカホシカクレエビ - . 千葉県立中央博物館友の会ニュース , (53) : 6 .

柳 研介

Yanagi, K. and M. Daly . 2004 . Hermaphroditic sea anemone *Anthopleura atodai* n. sp. (Anthozoa: Actiniaria: Actiniidae) from Japan with redescription of *A. hermaphroditica* . Proc. Biol. Soc. Wash., 117: 408-422 .

並河 洋・平野弥生・今原幸光・岩瀬文人・柳 研介・小川数也 . 2004 . 相模灘の刺胞動物相についての研究 . 相模灘およびその沿岸地域の動植物相の経時的比較に基づく環境変遷の解明の調査研究 (平成13-17年度) - 平成15年度調査研究報告 . 国立科学博物館相模灘調査実行委員会 . pp. 10-18 .

柳 研介 . 2004 . 水中に咲く花 イソギンチャクの世界 . 中央博物館だより , 59 : 1-2 .

柳 研介 . 2004 . 平成16年度マリンサイエンスギャラリー - 展示解説書「 ~ 水中に咲く花 ~ イソギンチャクの世界」 . 千葉県立中央博物館分館海の博物館 , 8 pp .

柳 研介 . 2004 . イソギンチャククイズ1-4 . 千葉県立中央博物館分館海の博物館ワークシート (平成16年度マリンサイエンスギャラリー) . 4 pp .

柳 研介 . 2004 . サンゴと褐虫藻の共生 . 千葉県立中央博物館分館海の博物館展示解説シート . 1 p .

柳 研介 . 2004 . サンゴと褐虫藻の共生 . 千葉県立中央博物館分館海の博物館ワークシート . 1 p .

事務局より

(1) 平成16年度の利用状況

本年度の当館の利用状況は、下表のとおりです。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	累計
開館日数	26	26	26	27	31	26	23	25	22	24	24	27	307
入館者数	7,515	14,633	5,997	7,911	19,367	5,257	3,858	4,774	2,951	6,147	4,372	6,530	89,312
個人	7,080	13,613	4,043	6,860	19,095	4,837	3,565	4,086	2,740	5,953	4,027	6,291	82,190
団体	435	1,020	1,954	1,051	272	420	293	688	211	194	345	239	7,122
一般団体件数	10	16	21	14	3	10	11	15	6	6	10	9	131
学校団体件数	1	5	16	9	4	-	1	1	-	1	1	-	39

(2) 平成16年度の臨時開館・休館

千葉県は、毎週月曜日（休日の場合はその翌日）と年末年始を定期休館日としています。海の博物館では、右表のとおり利用者が集中するゴールデンウィーク、夏休み期間中の定期休館日及び年末・年始に臨時開館しました。

施設のメンテナンス作業などのため、10月5日～8日、12月21日～22日と1月12日～13日を臨時休館日としました。

臨時開館日	入場者数（名）
平成16年 8月 2日	399
平成16年 8月 9日	697
平成16年 8月 16日	569
平成16年 8月 23日	547
平成16年 8月 30日	316
平成16年 12月 26日	240
平成16年 12月 28日	139
平成17年 1月 2日	711
平成17年 1月 3日	688
平成17年 1月 4日	581
合計	4,887

(3) 防災避難訓練

海の博物館では、毎年空気が乾燥し、火災が多発する冬季に防災避難訓練を実施しています。本年度も、2月24日に職員の火災に対する防災意識の向上と初期消火の重要性を目的に防災避難訓練を実施しました。快くご協力をいただいたお客様、ありがとうございました。

また、スマトラ島沖地震による津波被害を充分考慮し、関係各所と連携した津波対応マニュアルを作成しました。



(4) 有料化に伴うアンケート

千葉の県立美術館・博物館は、それぞれのテーマに基づいて千葉の自然や文化等を調査研究し、その成果を無料で一般に公開してまいりましたが、受益者負担の適正化や博物館活動の充実を図る観点から16年4月1日より入場料が有料となりました。今後の館運営の参考にさせて頂くためにアンケートを実施しました。360通のご協力を頂きました。

有料化アンケートの感想・要望等の一部を紹介します。

- ・ 展示室をもう少し広くして、いろんな生きている生物を増やして欲しい。(小・中学生)
- ・ 磯の生物を実際に手で触れる場所があるといい。(小学生)
- ・ 今まで無料だったけど有料になったので、お母さんが気軽に来れなくなったと言っています。(小学生)
- ・ 分かり易く、楽しかった。(小学生)
- ・ 体験出来るところを増やして下さい。(中学生)
- ・ とてもきれいで、見やすい展示だとおもいます。鮫肌に触れるなどの体験が面白かったです。これで100円なら全然気になりません。むしろかってただで入れた事にびっくりする位いです。(高校生)
- ・ 料金は、妥当と思うが、博物館に目玉がなく、インパクトに欠けていた。(大学生)
- ・ 施設がきれいで良かった。企画ごとに置いてある資料がきちんと、子供用、大人用になっていて良かった。水産関係の学生、水産に携わる人には、勉強の為に、入場料割引・無料等にしたい方がよい。(大学生)
- ・ 千葉県は、美術館も博物館も充実していて、無

- 料というのが魅力でした。ある程度は、やはり仕方ない事と思いますが、本来は、入館料を取るべきではないかもしれません。この値段ならば文句ないと思います。館内は、とても綺麗で、解説シート、スタンプもあり、見て触れて聞いて楽しめる展示で大変面白かったです。(大学生)
- ・ 有料化になるならもっとそれなりの物を出して欲しい。1~3階迄開放するなど以前から来ていた人にもお金を払ってまでも価値があると思わせて欲しい。(一般)
- ・ 今まで無料だったので、子供を連れてよく遊びに来ていました。雨でも楽しめる場所として、海水浴に来たお客様を雨天時には、案内していたのですが、有料になるとそうそう来る事も出来なくなりとても残念です。(一般)
- ・ 何でもかんでも有料は、おかしいです。せめてこの程度の博物館は、無料のままにして欲しいものです。(一般)
- ・ 有料化は、ある程度施設を維持する為には、仕方ないと思う。その分企画展示を充実させて頂きたい。(一般)

アンケート回答者内訳

県名	一般	大学生	高校生	中学生	小学生	その他	計
千葉県	76	3	6	14	83	9	191
茨城県	17	7	2	9	28	3	66
東京都	6				6	3	15
埼玉県	17	3	2	4	13	1	40
群馬県	3			1	1		5
栃木県	2		1	1	2	1	7
神奈川県	6	1	1	3	5	1	17
長野県	1				1		2
静岡県	3	1			1		5
宮城県		1					1
福島県	1						1
北海道					3		3
岐阜県	1						1
大阪府	1	1			1		3
福岡県		2				1	3
計	134	19	12	32	144	19	360

平成17年度の行事案内

(1) マリンサイエンスギャラリー

～これもハゼ、これでもハゼ～ ハゼの世界

平成18年2月25日 鯉～5月7日 豕

ハゼ類は、季節の風物詩として話題になっているハゼ釣りの対象として、また磯や川遊びの格好の遊び相手として親しまれています。しかし、「ダボハゼ」と称される様に「地味な魚」と連想される方がほとんどでしょう。ハゼの仲間は魚類の中でも驚くほど種類が多く、日本周辺だけでも約500種が分布しており、その生息環境も池や河川などの淡水域から干潟やサンゴ礁の海までさまざまです。今回のマリンサイエンスギャラリーでは、この様な多様性に富んだハゼの仲間たちを紹介します。

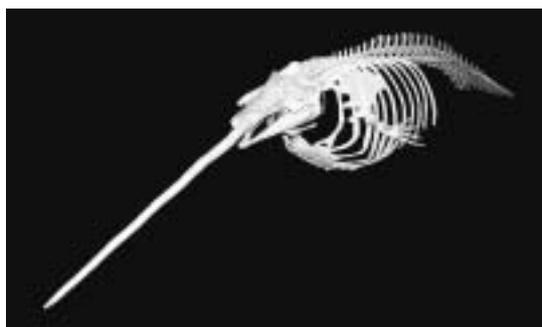


(2) 平成17年度収蔵資料展

イッカク～長いキバを持つクジラ～

平成17年7月2日 鯉～9月4日 豕

イッカクは北極海に生息する1本の長い角（キバ）を持つハクジラの仲間です。今回の収蔵資料展では本館が所蔵する雄のイッカクの全身骨格標本を展示し、その生息域や長いキバの使い方などを紹介します。また、イッカク以外のハクジラ類の歯の標本をあわせて紹介します。



(3) 平成17年度の行事

講座

実施日	時間	タイトル	内容	定員	対象
H17. 4.24 豕	13:00-15:00	ウミウシを調べよう	同日午前採集したウミウシを顕微鏡を使って詳しく観察します。	20名	小学生高学年以上
H17. 5. 8 豕	12:30-14:30	親子で磯の生きものを観察しよう	同日午前採集した生きものを詳しく観察したり、実験を行います。	20名	小学生（保護者同伴）
H17. 7. 3 豕	13:00-15:00	親子で魚拓を作ってみよう	魚の体のつくりを学びながら、魚拓づくりにチャレンジします。	20名	小学生（保護者同伴）
H17. 7.17 豕	13:00-15:00	親子で標本を作ってみよう	博物館の役割を学びながら、海の生きものの標本を作ります。	20名	小学生高学年以上
H17. 9. 4 豕	10:00-12:00	イソギンチャクを知る	標本やスライド、ビデオを使ってイソギンチャクの全てを紹介します。	20名	中学生以上
H17. 11.13 豕	13:00-15:00	温帯の海・シドニーの魚	日本では見られない温帯性の魚たちの生態を紹介します。	20名	中学生以上
H17. 12.18 豕	13:00-15:00	ダイバーのためのハゼ講座	ダイバーになじみの深いハゼの仲間について様々な話題を紹介します。	15名	高校生以上
H18. 1.21 鯉	13:30-15:30	海辺の野鳥	海の博物館周辺の海辺で見られる海鳥を紹介します。	20名	中学生以上
H18. 1.29 豕	13:00-15:00	クジラの雑学講座	様々な視点からクジラについて紹介します。	15名	高校生以上
H18. 2.12 豕	13:00-15:00	ダイバーのためのエビ・カニ講座	ダイバーに人気のあるエビやカニを題材とした講座です。	15名	一般
H18. 3. 4 鯉	13:30-15:30	海鳥	海の博物館周辺の海辺で見られる海鳥を紹介します。	20名	中学生以上
H18. 3.19 豕	10:00-15:00	顕微鏡で海藻を観察しよう	顕微鏡を使って、海藻の体のつくりなどを観察します。	15名	一般

観察会

実施日	時間	タイトル	内容	定員	対象
H17. 4.10 豕	10:30-12:30	親子で磯の生き物を探そう入門編	親子でよく見られる磯の生きものを観察します	20名	小学生(保護者同伴)
H17. 4.24 豕	10:00-12:00	ウミウシを探そう	博物館前の磯でウミウシを観察します	20名	小学校高学年以上
H17. 5. 8 豕	9:30-11:30	親子で磯の生き物を探そう	親子でよく見られる磯の生きものを観察します	20名	小学生(保護者同伴)
H17. 5.29 豕	10:00-15:00	春の植物	鵜原理想郷で見られる植物を観察します	35名	中学生以上
H17. 7.31 豕	10:00-12:00	流れ藻に付く稚魚	船に乗って流れ藻と、それに付く稚魚を観察します。	5名	高校生以上
H17. 8. 7 豕	9:30-12:30	水中メガネで海の生きものを観察しよう	水中メガネの使い方を学び、海の生きものを観察します。	20名	小学生(保護者同伴)
H17. 8.20 狸	10:00-12:00	エビ・カニを探そう	海の博物館前の磯で、エビやカニなどの甲殻類を観察します。	20名	一般
H17. 8.21 豕	10:30-12:30	親子で磯の小魚を探そう	海の博物館前の磯で、小魚を探して観察します。	20名	小学校高学年以上
H17. 8.28 豕	10:00-15:00	夏の植物	鵜原理想郷で見られる植物を観察します	35名	中学生以上
H17.10.23 豕	10:00-15:00	秋の植物	鵜原理想郷で見られる植物を観察します	35名	中学生以上
H18. 1.21 狸	10:30-12:30	船に乗って海鳥を観察しよう1	勝浦の海上で見られる野鳥を観察します	9名	中学生以上
H18. 2.26 豕	10:00-15:00	冬の植物	鵜原理想郷で見られる植物を観察します	35名	中学生以上
H18. 3. 4 狸	10:30-12:30	船に乗って海鳥を観察しよう2	勝浦の海上で見られる野鳥を観察します	9名	中学生以上
H18. 3.18 狸	11:00-13:30	海藻を観察しよう	潮間帯で春先に見られる海藻を探して観察します。	20名	一般

フィールドトリップ

(それぞれの定員は15名)

実施日	時間	タイトル
H17. 4. 9 狸	10:30-11:30	磯の生きものを観察しよう1
H17. 4.24 豕	10:00-11:00	磯の生きものを観察しよう2
H17. 4.29 猫	13:30-14:30	磯の生きものを観察しよう3
H17. 4.30 狸	14:30-15:30	磯の生きものを観察しよう4
H17. 5.14 狸	14:00-15:00	磯の生きものを観察しよう5
H17. 5.29 豕	14:30-15:30	磯の生きものを観察しよう6
H17. 6.11 狸	13:00-14:00	磯の生きものを観察しよう7
H17. 6.25 狸	12:30-13:30	磯の生きものを観察しよう8
H17. 6.26 豕	13:30-14:30	磯の生きものを観察しよう9
H17. 7. 9 狸	12:00-13:00	磯の生きものを観察しよう10
H17. 7.23 狸	11:30-12:30	磯の生きものを観察しよう11
H17. 7.24 豕	12:30-13:30	磯の生きものを観察しよう12
H17. 8. 6 狸	10:45-11:15	磯の生きものを観察しよう13

実施日	時間	タイトル
H17. 8. 6 狸	11:30-12:00	磯の生きものを観察しよう14
H17. 8.19 猫	10:00-11:00	磯の生きものを観察しよう15
H17. 9. 3 狸	10:00-11:00	磯の生きものを観察しよう16
H18. 3.21 猫	13:30-14:30	磯の生きものを観察しよう17
H18. 3.30 猫	10:30-11:30	磯の生きものを観察しよう18

バックヤードツアー

(それぞれの定員は15名)

実施日	時間	タイトル
H17.11.20 豕	13:00-13:30	バックヤードツアー 1
H17.12. 4 豕	13:00-13:30	バックヤードツアー 2
H18. 1.22 豕	13:00-13:30	バックヤードツアー 3
H18. 2.19 豕	13:00-13:30	バックヤードツアー 4

(4) 海の環境学習研修会

海辺での校外学習を計画・担当する学校の先生を対象とした研修会です。平成17年度は、千葉県総合教育センターとの共催事業「海の生物と環境講座」として、8月4日・5日・24日の3日間開催します。なお、参加者の募集は、千葉県総合教育センターで行います。

蘆薈蘆薈県立美術館・博物館 年間パスポート及び団体割引制度新設のご案内 蘆薈蘆薈

千葉県立美術館・博物館では、平成17年4月1日から、お一人の方が購入後一年間に何度でもご利用できる年間パスポート券を発売します。また、20人以上の団体でご利用される場合の団体料金(割引)を新設します。

ぜひ、ご利用ください。

年間パスポート料金(企画展開催期間は、別途所定の入場料が必要です。)平成17年4月1日から
中央博物館分館海の博物館 (勝浦市) 一般1,000円 高校生・大学生500円

有効期間 ご購入された日から1年間有効です。

ご購入の方法 全館共通を含み各館受付(入場券売場)で直接販売いたします。事前に申込み場合は、各館へお申し出ください。高校生・大学生の方は学生証をご提示ください。

団体割引(20人以上の団体) 平成17年4月1日から

団体 一般 160円 高校生・大学生 80円 個人 一般 200円 高校生・大学生 100円

職員から



乃一哲久

立川浩之

近藤佳純

三平晃子

柳 研介

川瀬裕司

村田明久

藍澤正宏

高梨真由美

吉村和子

堀江義一

高橋垂紀

奥野淳兒

菊地則雄

海博の学校連携活動も盛んになり成果も上がって来ました。次の世代を担う子供達が海に興味を持つための博物館になればと思っています。(堀江)

博物館も有料化になり、1年経過しました。博物館への手紙の中に「とても良かった。楽しかった。又来たいです。」と書かれていると私にとっては、とても素晴らしいプレゼントを頂いた気分になります。(吉村)

早いもので、博物館任務も3年が過ぎ少しは海の生き物のことがわかってきました。これからは、海生生物に詳しい事務職員を目指します。でも、やっぱり食べるほうがいいな。(近藤)

有料化の波は見事に乗り切ったというのは自己満足…。入場者数の減少を見ると博物館として新たな波を乗り切らなければならないことを痛感させられます。(三平)

県内各地から採集した魚類を博物館に標本として収蔵し、魚類の分布に関する情報を少しずつ蓄積しています。約570種の魚類標本が海の博物館に収蔵されていますが、まだ標本のない種類もあり資料収集の必要性を感じています。(藍澤)

茂原から自動車通勤しています。通勤の途中では、しばしば事故にあった動物の死体を目にします。排気ガスだけではなく動物にも配慮したエコドライブを心掛けたいものです。(乃一)

毎年オーストラリア・シドニーの海で魚類の繁殖行動を潜水観察してきましたが、いろいろ面白いことがわかってきました。来年度は講座でその成果の一部を紹介する予定ですので、ぜひ聴きに来てください。(川瀬)

宮城県・志津川での資料収集では、房総半島では見られない生きものを多数収集できました。関係者の皆さん、ありがとうございました。それにしても潜水調査は寒かったな。(立川)

絶滅危惧種となっているアサクサノリの養殖が、この冬、東京湾で復活しました。アサクサノリに関わってきた人間として嬉しい限りです。世間の関心は食べることに集中しているようですが、天然での生育状況などにも広がればと期待しています。(菊地)

十脚甲殻類をエビ、ヤドカリ、カニと分けたとき、私の専門はエビの仲間です。2年前

にヤドカリの企画展示を担当した後、やたらとヤドカリが気になるようになりました。みなさまにヤドカリの魅力を伝えるために行った展示で、ヤドカリにいちばん魅了されたしまったのは私自身。(奥野)

今年度は、マリンサイエンスギャラリー「～水中に咲く花～イソギンチャクの世界」を担当しました。ご来場いただいたお客様、ありがとうございました。また、ご協力いただいた多くの方々にもこの場を借りて御礼申し上げます。(柳)

フジツボを調べようという殊勝な高校生が現れてびっくりしました。うまく結果が出ているとよいのですが。(村田)

有料化したせいか、酔っ払いが少なくなって嬉しいですが。でも近所のお母さんやお父さんが気軽に入れなくなったのは残念です。(高橋)

ロビーの図書コーナーには小学生のお子さん達が作った手作りの本が数冊置いてあります。夏休みの自由研究の宿題などですがどれも力作揃いなので是非ご覧ください。(高梨)

ご利用の案内

開館時間	午前9時～午後4時30分
休館日	毎週月曜日(ただし、月曜日が休日にあたる時はその翌日、8月は無休)、年末年始(12月26日～1月1日)、その他の臨時休館日
入場料	25ページをご覧ください。
駐車場	午前8時30分～午後5時15分(有料)
交通	JR外房線 鶴原駅から徒歩15分 勝浦駅からタクシーで約10分 勝浦駅から小湊鉄道バス「興津経由松野」行き「吉尾入口」下車、徒歩12分 勝浦駅から小湊鉄道バス「海中公園・海の博物館」行き下車すぐ(土・日曜日、祝日のみ)
自動車	千葉市からR16、R297、R128を使って約2時間 東京湾アクアラインから館山自動車道、R409、R297、R128を使って約1時間半 館山市からR128を使って約1時間半 銚子市からR126、R128を使って約3時間

平成16年度 千葉県立中央博物館 分館海の博物館 ニュースレター「いそび通信」No. 6 平成17年3月31日発行



編集・発行 千葉県立中央博物館 分館海の博物館

〒299-5242 千葉県勝浦市吉尾123 電話 0470-76-1133 FAX 0470-76-1821

e-mail: umihaku@chiba-muse.or.jp URL <http://www.chiba-muse.or.jp/UMIHAKU/index.htm>